

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101786		
法人名	特定非営利活動法人ドリーム福祉介護支援サービス		
事業所名	グループホームどリーむ荘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町平木場郷517-5		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ホーム全体が明るく、笑顔が多い ②ゆっくりと利用者様と職員が向き合い、話し合い、楽しいホーム ③一人一人に合った時間を過ごして頂き、のんびりとした生活が送れます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれた長閑な住環境にある当ホームは、居室に明るい日差しが差し込み、季節の花や木々の変化などほっと寛げる環境が準備されている。「みんなで ゆっくり 楽しく」の理念は、理事長や管理者が日常的に支援に関することで職員にも浸透し、入居者を急かせることなく、それぞれのペースを大事にした支援に繋がっている。理事長や管理者は、入居者や職員の身近な存在として入居者の状態把握に努め、課題解決に迅速に対応している。このことは入居者や家族の安心感、職員の離職を防ぎ、介護の安定にも繋がっている。生活において、入居者本人が自力でできることを支え、「危険な道具であるハサミや針を使用した手作業も、職員が後ろにつくことで怪我を防ぎ、安心して趣味を楽しむことができる」と入居者の残された力を活かす職員の姿に、今後、ますます期待の持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなで、一緒に、ゆっくり、楽しく」を基本理念とし、スタッフ全員が介護の質の向上に向けてケアに取り組んでいます。	理念は玄関近くに掲示し、理事長と管理者が現場で介護に関わり姿勢を示すことで職員に浸透し、共有が図られている。入居者とゆっくり関わることを大事にした支援は、職員間の互いの声掛けで入居者本位のゆっくりとした時間を作り出し、アットホームな雰囲気や入居者の笑顔を生み出している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、なかなか地域行事等に参加できていないのが現状です。以前交流のあった保育園ともお互いがコロナの影響により交流を遠慮させて頂いております。直接的な交流は現時点では行っておりませんが、敬老の日などの写真やプレゼント交換は継続してお互いの職員が代表して訪問しています。	ホームは自治会にも加入し、回覧板などで地域の情報も把握している。理事長を中心に地域と関わりを持ち、地域清掃や挨拶、野菜のやり取り等で顔が見える関係性を築いている。感染症予防で入居者と地域の関わりを控えたが、地域からの介護相談を受けた際には、専門的な情報を提供する等、地域貢献にも意識を持って取り組んでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、外部の方との接触は極めて少なくなっております。しかし、どりーむ荘も開設20年となり、地域の方々にも少しずつではありますがご理解頂けているとは思いますが。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は2か月に1度どりーむ荘内で開催していましたが、コロナの影響にて書面での開催になりました。熱心に目を通して頂けているようで、アドバイスなどをお手紙で送ってもらったりと、大変参考になりました。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催となっているが、ホームの状況や介護方針を書面で伝え、運営の透明性に努めている。今回、書面では雰囲気がかみにくいとの声を受け、写真で可視化し、改善に努めた。書面に参加者からの意見がなく、参加者間の相互理解に難点も窺われるが、今後は対面開催を予定し更なる理解に繋げる方針である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	最近ではメールでのやり取りに切り替わりつつありますが、電話での問い合わせにも丁寧に対応して頂いております。	困難事例が生じた際には、行政の各専門部署と連携を図り、迅速な課題解決に向け取り組んでいる。コロナ禍でZOOMによる外部研修へ参加、協働的な姿勢で行政と関わりを持ち、他事業所との情報交換で提携に努めている。更なる高齢化社会を迎え、公的サービス等制度理解にも意識を持ち取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束廃止委員会を施設内に設置しています。身体拘束を行わないケアに努めます。	日中は、玄関は施錠せず見守りにて対応している。今年度は身体拘束の三原則や具体的行為、身体拘束における弊害を職員間で再度共有し、業務の振り返りを行った。帰宅願望を持つ入居者へは前向きな言葉を用いて症状の軽減を図るなど、その方の状態に応じてその都度介護方針を話し合い、身体拘束のないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、スタッフ全員で共有しています。虐待のないケアに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を集め、スタッフ全員でその情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を得る為に説明の際には十分な時間を確保しています。分かりやすく丁寧に説明するように心がけています。また、一方的に説明をするのではなく、時には確認しながら説明をするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を出しやすい様に玄関先に記入用紙を設置しています。また、苦情解決第三者委員会を設立しています。	家族が利用料の直接払い毎に入居者の暮らしぶりや状況報告を行い、家族の不安軽減や意見の集約に努めている。また、玄関受付には意見箱を設置している。コロナ禍で家族との面会が困難な時期もあったが、電話の仲介やLINEでの写真添付でこまめに変化を伝え、意見や要望は申し送りノートで周知し、職員間で共有が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間で意見や提案を出しやすい関係構築に心がけています。	日々の申し送りで入居者の状態や業務における課題がその都度話し合わせ、申し送り簿を通して介護方針等職員間での共有が図られている。理事長や管理者が直接介護に関わることで職員の声が迅速に反映され、働きやすい職場づくりや介護の安定性にも繋がっている。	職員会議や研修を申し送りで行っているとの事であるが、実施記録の確認ができず実際の開催状況や証明が困難であった。今後、身体拘束適正化委員会の議事録や研修での意見等を含め、適切に記録に残し、介護報酬を得るための証拠や情報共有に繋げることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、スタッフの努力や成果を把握しています。小さい規模の施設の為、代表者自身も業務に携わっています。資格取得の際など、条件の整備の時に参考にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤スタッフ同様にパートスタッフもチームの一員として研修会への参加も可能としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響もあり同業者との交流は殆どありませんでした。しかしコロナの対応で困っている時などは同業者の方へ相談をさせた頂くこともありましたが、地域での感染状況や様々な情報などを随時連絡がありましたので、大変助かりました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや不安に思っていることに対し、時間をかけて分かりやすく丁寧に対応するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、安心・納得を得られるようにホームの見学をして頂いています。(コロナ渦でも短時間で行っていましたが)短時間ではありますが、丁寧に説明をするよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談等があった時など、その方の立場や何を必要としているのかを検討し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは常に人生経験豊富な利用者様の思慮深さや人格を尊重し、人としての多くのことを学んでいます。また、利用者様の得意分野を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝する関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、不安や疑問を抱いた時には直ちに傾聴する姿勢を心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で面会を中止していたため直接会うことはなかったのですが、手紙や電話で関係が途切れないようにしていました。	入居者との窓越しでの面会であったが、本人や家族の心情を理解し、大切な親子関係が途切れないよう努めている。受診の機会を利用して本人が住んでいた場所をゆつくりドライブし、馴染みの風景に触れ、昔話で表情を緩める場面があった。コロナ禍で家族以外の面会を制限する状況にあったが、今後は制限も緩和し、知人との関わりも増やしていく意向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の性格を把握し、お互いが立場を確認できるようにスタッフは十分な観察や声掛けを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了してもサービス利用期間に培われた関係性を大切に、ご家族からの相談等があった時には相談役となっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人様の意向を確認し、ご家族や関係者からの情報収集を行っています。日々の関わりの中からその人らしい暮らし方を見出すようにしています。その都度ご家族に報告し、喜びを共有しています。	職員はゆったりとした関りの中から入居者の思いを傾聴し、丁寧な声掛けや表情の変化に注意を払いながら入居者の趣味や、暮らし方の意向の把握に努めている。家族からの入居前の情報もしっかり聞き取り、支援に活かしている。入居者の言葉や行動は介護記録を通して職員間で共有し、自宅での生活が入居後も継続できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人一人の生活歴や生活環境を把握するように努めています。面談時にはご家族・ご本人様にも来所して頂き、ホーム周辺の環境や建物を見学することにより安心感を抱いて頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時にご本人様がしたいと思うことを大切に、ご本人様の希望に沿った支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の思いや意向を尊重し、ご家族や関係者からの情報を基にスタッフ全員で課題や支援のあり方を検討しています。	計画作成担当者は、介護計画作成時に本人、家族の意向を確認し、介護記録から入居者の生活全般の課題を抽出している。本人ができる範囲の目標設定で入居者の過度な負担にならないよう配慮し、家族にも分かりやすい介護計画作成に努めている。状況とコメントをもとに次回計画作成に繋げ、現状に即した計画になるよう努めている。	本人、家族に対する介護計画の説明、同意はなされているが、家族へ介護計画の交付が行われていない。支援の方針等家族との共有、公正なサービス提供、説明責任も含め、現状の改善を図ることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や特徴を個人記録に具体的に残し、スタッフ全員が情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本に様やご家族に日々変化する状況や要望に応じて、必要なサービスを提供できる様に心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の意向や必要性に応じて関係各所と連携を取ります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでも協力医療機関を設けています。しかし要望があればこれまでの係りつけ医の継続も可能としています。また、移動が困難になられた方に対しては、訪問診療もできる医療機関とも連携を取っています。	入居者の希望に応じて入居前のかかりつけ医を継続受診している。こまかな状態変化にも敏感に反応し適切な医療に繋がるよう努めている。定期受診後は家族へ受診結果の報告を行い、職員間では申し送り簿を通して内服の追加や変更、検査等治療方針や情報共有が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、主治医・看護師・連携室の方より病状や身体レベルの状態を把握するように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の利用者様に対する支援に対しては、ご家族や担当医と十分な話し合いを持ち、支援しています。また、ターミナルケアに関しては、医療行為が必要な場合を除き対応可能としています。この際には、ご家族の協力を前提とします。	ホームでは入居の段階で看取りの指針の説明を行い、病気の進行や体調変化ごとに家族と治療・介護の方針を確認している。最期をホームで望む家族に対しては、看取り専門医と家族で話し合いがなされ、最期の時間を家族でゆっくりと過ごす看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の判断・対応や予防・知識についての基本マニュアルを備え、スタッフ全員が理解できる様にプリント等で勉強し、話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回避難訓練を行っています。火災発生時の初期行動・避難場所・消火器等の設置場所の把握や、火災予防の為に自主点検シートを活用したり、夜間はコンセントを抜く等の対策を行っています。また、自然災害に対しては、ハザードマップを活用しています。	定期的な訓練と毎日の自主点検シートを活用し、職員個々が日常的に防災への意識を持って取り組んでいる。今回、ハザードマップについて行政に確認し、山の形状や避難場所についての意見を窺った。備蓄食品をローリングストック法で管理し、その都度日常生活消費、補充がなされている。	全職員及び入居者参加型で実施する訓練では訓練ごとに機材操作や手順を確認し、防災に向けた訓練が行われている。但し、記録内容が固定化され、反省会での職員の振り返りの記録がなく、出火場所や訓練内容の詳細が確認できなかった。今後、改善に向け記録の充実を図ることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や更衣等のご本人様にとって抵抗を感じる様な事に対しては、プライバシーに配慮した支援に努めています。	職員は日頃から入居者への支援前には必ず名前を呼ぶこと、また、開かれた質問で入居者が自分の意思を表出しやすい関わりを心がけている。接遇マナー研修の実施はなかったが、日頃から職員間で互いの気づきを注意できる関係性を築き、入居者を人生の先輩として不適切ケアに繋がらないよう努めている。おむつやバットを使用されている利用者の居室も、用品が目に見えないように配慮されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ一人一人が利用者様と密にコミュニケーションを取れる様に努め、思いや希望を訴えやすい関係を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせ、希望に沿うように心がけています。しかし、やむを得ない状況の時には十分に説明をし理解を得る様に努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡の前に立ち、出来る限りご自身で身なりを整えて頂く様に援助しています。出来ない部分はスタッフがフォローに入ります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方々の能力に応じてスタッフの介助のもと準備等を分担して行っています。また、季節のイベントや誕生日には、その場に応じたメニューを提供しています。	リビングとキッチンが繋がった共用空間では、入居者が調理の音や匂いを感じられる住環境にあり、食事をゆっくりと楽しむことができるよう努めている。入居者が調理に参加し、役割を担うこともある。家庭的な味を大事にした食事は、適温で提供され、入居者それぞれに持ち込まれた思い入れのある食器を使用し、季節の献立やリクエスト食にも柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事やおやつの摂取量をチェックし、食べ残しなどの有無を確認しています。水分摂取にも心がけており、入浴後や外出時には水分補給に努め、飲み終わりまでを必ず確認する様になっています。また、月に2回体重測定を行い、変動の著しい時は主治医へ相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを行う様に心がけています。介助の必要な方はスタッフの付き添いのもと行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄も目標に自立支援を行っています。時間ごとのトイレ誘導にて排泄を促すことにより、失禁が減ったという例もあります。	職員は、排泄動作や認知機能等入居者の残存機能を見極め、排泄チェックシートを活用し、排泄状況や頻度等職員間で対応方法を検討し排泄の支援に努めている。布下着からリハビリパンツの使用等段階を踏んだ対応をし、移動能力に応じた居室の配置でトイレを使用した排泄に繋げている。尊厳に配慮した丁寧な排泄への取り組みがなされている。におい防止のために汚物入れは外に設置するなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中に軽い体操や歩行練習を行い、便秘予防を図ると共に、運動不足の解消にも繋がっています。食事にも配慮し、食物繊維を多く含む食品の摂取に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴をゆっくりと楽しんで頂ける様に、季節に応じた入浴剤を入れています。その他に浴室と廊下の温度差により身体的負担が生じない様に室温にも配慮しています。	週3回、入浴の機会を設け、入浴頻度や時間帯など柔軟な対応がなされている。重度の入居者も介助者2名体制で浴槽で身体を温めることを大事にし、入居者の清潔や心身の機能維持に繋がっている。ゆっくりとした入浴時間は入居者の寛ぎや職員とのコミュニケーションの時間として楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に応じた換気を行い、衣服や寝具類の調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表をファイリングし、目的や副作用・用法・用量をスタッフ全員で確認しています。また、飲み忘れや誤薬を防止する為に2人のスタッフで薬包を確認し、チェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に生活歴を聴取し、その方の趣味や特技、以前の職業等からどの様な事に興味を持ち、どの様な事を好むのかを検討しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦だった為、外出は病院受診のみでした。コロナ蔓延の時は病院受診もできず、電話診療の時もありました。ご家族様にさえ会う事が出来ない時が続いたので、利用者様には大変心苦しく思っています。様々な制限も緩和されつつあるため、ホーム内での面会は可能としました。まだ様子を見ながらではありますが、花見等の外出ができればと思っています	コロナ禍で外出を控える状況にあったが、天候を見てホーム中庭で弁当を食べたり、外気浴を楽しみ、レクリエーションで入居者が気分転換や季節を感じることができるよう努めている。ホームは今後規制が緩和されることで徐々に行動範囲を戻し、以前のように花見などドライブ等に出かける頻度を増やしていく意向にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の所持に控えて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に沿えるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレには絵や詩を飾り、リビングにはソファでゆっくりと寛げる空間づくりに心がけています。	木目調の温かな色遣いや家庭的な家具の使用でアットホームな寛ぎの空間が広がっている。動線を広く取った家具の配置で、入居者は思いおmoiの場所で過ごし、玄関には季節ごとに工夫された入居者手作りの作品が飾られている。笑顔あふれる写真は家族の目を楽しませ、居心地のよい空間が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを置き、利用者様同士で会話を楽しめる空間づくりに心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具等は以前使用していた馴染みの物を使用するようにしています。その事によって居心地よく過ごして頂ける様に努めています。	家族には入居案内時に入居者本人が家庭で使用していたものの持ち込みを依頼し、家族と話し合いながら家庭での暮らしの延長となる居室づくりに努めている。明るい採光で清潔感のある居室では、入居者はできる範囲で寝具の手入れなどを担い、生活に参加している。好きな時間に針仕事や手紙を書く等、自室で思いおもいに時間を過ごし、楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はご本人様にして頂く様に促し、困難なことに対してはスタッフが声掛けを行い、必要に応じて介助を行っています。		